

長期戦略:テーマ 「学生生活支援の充実(寮)」

提出日 2018年 8月 28日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	村田学長 (総合企画部)	実施計画の 担当部署	国際教育寮 WG
-----------------------	-----------------	---------------	----------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(15)-① (SGU2-3) (SGU2-3) (SGU2-3) 政策の立案	(2014)年度	(2023)年度	必要なし	不要
内容				
<p>日本人学生と外国人留学生の混住型国際教育寮における共同生活を通じ、国際理解教育を進める。</p> <p>国際理解教育の観点から、女子寮に続き、既存の男子寮についても混住型国際教育寮と位置づけ、日本人学生と各国からの外国人留学生が共同生活を送るなかで文化・宗教・習慣・考え方・感じ方の違いを知り、そこから生じる障壁を乗り越えながら相互の理解を深める場とする。また、教育寮としての効果を高めるためには、教員の舎監、管理人、RA (Resident Assistant) についてそれぞれ明確に機能を定めて配置する。留学生を主対象とする寮にも(管理人とともに) RA を配置し、混住による教育の場と位置づける。</p> <p>寮については居住する学生・外国人留学生を学院が見えない形で財政負担していることから、支援相当分を奨学金制度に転換して可視化を図る。</p>				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1	国際理解教育の充実度	<p>定義) 「大学 IR コンソーシアム在学生調査」で検証している汎用的能力獲得状況のうち4項目 (①異文化の人々と協力する能力、②異文化の人々に関する知識、③外国語の運用能力、④グローバルな問題の理解) の獲得状況 (算式) 上記4項目で「大きく増えた」「増えた」と答えた者の割合の平均値について、上級生時マイナス1年生時の値(1年生→上級生の増加ポイント)を指標とし、全学生平均と国際教育寮入居経験者とで比較する。</p> <p>(付記) フェーズ1終了時点で、より適切に「国際理解教育の充実度」を測定する指標があれば、定義・算式を変更する。</p>		

指標2	(SGU) 外国人留学生のうち、日本人学生との混住型国際教育寮に住む外国人留学生の数	混住型国際教育寮に住む外国人留学生の数 (5月1日現在)
指標3	(SGU) 混住型国際教育寮に住む日本人学生の数	混住型国際教育寮に住む日本人学生の数 (5月1日現在)
指標4	(SGU) (指標2の内数) 啓明寮、静修寮、成全寮、清風寮に住む外国人留学生の数	各寮に住む外国人留学生の数 (5月1日現在)
指標5	(SGU) 外国人留学生宿舎の確保数	関西学院大学が外国人留学生にアレンジできる部屋の数 (RAを含む) (10月1日現在)
指標6	正規留学生受入に関する財政支援のあり方の見直し	N/A (奨学金制度、学費減免、宿舎支援等の現状を他の7大学と比較し、適切な定義・算式等を検討する)

目標1<指標1>国際理解教育の充実度

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標			N/A (国際教育寮の施設整備が2021年度までかかるため。この間に定義・算式にもとづく具体的な測定方法と目標値を決定する。)	
実績				

目標2<指標2> (SGU) 外国人留学生のうち、日本人学生との混住型国際教育寮に住む外国人留学生の数

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4 年目以降
目標	36 人 (SGU で設定)		85 人	95 人(2024 年度) 95 人(2027 年度)
実績				

参考(2017年5月1日現在): 77人 現状の混住型国際教育寮=清風寮、国際学生レジデンスⅣ、同Ⅴ

目標3<指標3> (SGU) 混住型国際教育寮に住む日本人学生の数

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4 年目以降
目標	84 人 (SGU で設定)		165 人	160 人(2024 年度) 160 人(2027 年度)
実績				

参考(2017年5月1日現在): 41人 現状の混住型国際教育寮=清風寮、国際学生レジデンスⅣ、同Ⅴ

目標4<指標4> (SGU) (指標2の内数) 啓明寮、静修寮、成全寮、清風寮に住む外国人留学生の数

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4 年目以降
目標	啓明、静修、成全 3 寮合計 5 人以上 清風寮 12 人		啓明、静修、成全 3 寮合計 10 人以上 清風寮 12 人	啓明、静修、成全 3 寮合計 10 人 清風寮 12 人 (2024 年度、2027 年度)
実績				

参考(2018年5月1日現在):定員 12 名 (清風寮のみ)

目標5<指標5> (SGU) 外国人留学生宿舍の確保数

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4 年目以降
目標	合計 255 部屋	合計 260 部屋	合計 270 部屋	合計 280 部屋(2024 年度) 合計 280 部屋(2027 年度)
実績				

参考:(2017 年 10 月現在)215 部屋

(内訳) ホームステイ(51)、レジデンスⅡ(33)、レジデンスⅢ(11)、レジデンスⅣ(27)、レジデンスⅤ(72)、清風寮(12)、その他(9)

#レジデンスⅡは 2020 年度までの契約のため、レジデンスⅣは短期プログラム専用のため、その他は個人手配等外部で変動があるため、それぞれを現状値には含めないとする現状値は 135 部屋となる。

目標6<指標> 正規留学生受入に関する財政支援のあり方の見直し

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4 年目以降
目標	他大学の情報収集結果および別テーマ(1.(14)奨学金)の進捗に連動して検討する。			
実績				

2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(1)男子3寮を含む 既存学生寮の国際 寮化	策定段階	留学生定員の設置 (啓明、静修、成全 3寮合計5人以上 清風寮12人)	留学生定員拡大に向 けての準備・調整	留学生定員の拡大(啓 明、静修、成全 3寮合計10人以上 清風寮12人)		
	2020年3月 末段階					
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階					
	2020年3月 末段階					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(2)RAの配置およ び制度改良による 国際教育の充実	策定段階	国際学生レジデンスV RA5人	RA制度の効果検証 他の寮への拡大につ いて検討	(2020年度の検討結果 による)		
	2020年3月 末段階					
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階					
	2020年3月 末段階					

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(3)外国人留学生 宿舎の確保・整備	策定段階	物件情報の収集 適宜、賃借等について 検討し、目標5に定め た宿舎数を確保し必要 な整備を行う				
	2020年3月 末段階					
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階					
	2020年3月 末段階					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(4)収支マイナス補 てんの奨学金への 転換(日本人学生、 留学生共通)	策定段階	N/A 別テーマ(1.(14) 奨学金)の進捗に連動				
	2020年3月 末段階					
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階					
	2020年3月 末段階					

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(5) 正規留学生受入に関する財政支援のあり方の見直し	策定段階	他大学の情報収集結果および別テーマ(1.(14)奨学金)の進捗に連動して検討する。				
	2020年3月末段階					
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階					
	2020年3月末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】				
非公開				
経費 単位:万円	()年度	()年度	()年度	4年目以降
非公開				
人員・人件費 単位:万円	()年度	()年度	()年度	4年目以降
非公開				

4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	
() 年度	
() 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2020 年度	
() 年度	
() 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

()年度	
()年度	
()年度	